

## 第7回 八戸市協働のまちづくり推進委員会

日 時：平成26年3月26日（水）18:30

場 所：八戸市庁別館2階 会議室B

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

### ■ 会議概要について

- 平成26年度「元気な八戸づくり」奨励金対象事業書類審査会
  - ・平成26年度奨励金対象（12件）の書類審査、及び意見交換を実施。
  - ・上記意見交換を基に、市民奨励金公開ヒアリング審査会（4/19開催）における委員会総評案を検討。

### ■ 今後のスケジュールについて

◇4月19日（土） 平成26年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会

13:00～ 市庁別館2階 会議室C

- ・事前打合せ 審査会の流れの確認など

13:30～ 市庁別館2階 会議室C

- ・審査会 「元気な八戸づくり」市民奨励金のH26年度事業（12件）

◇4月24日（木） 平成25年度 市民奨励金事業の評価

18:30～ 市庁別館2階 会議室B

- ・評価 活動成果発表会総評の検討など

◇5月24日（土） 平成25年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」

13:00～ レジデンスB

- ・事前打合せ 発表会の流れの確認など

13:30～ 八戸ポータルミュージアムはっち1階 はっちひろば

- ・発表会
- ・市民奨励金 H25年度交付事業（7件）
- ・市民提案制度 1件

### ■ 出席者（敬称略） ※参考

○協働のまちづくり推進委員会（7名）

- ・北向秀幸 委員長
- ・浮木 隆 副委員長
- ・五戸保夫 委員
- ・齊藤綾美 委員
- ・佐藤博幸 委員
- ・田頭順子 委員
- ・西島 拓 委員
- ・市民連携推進課（3名）

## 第7回 八戸市協働のまちづくり推進委員会

(平成26年度奨励金対象事業書類審査会)

日時：平成26年3月26日(水) 18:30

場所：八戸市庁別館2階 会議室B

### 次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 案件  
平成26年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査
- 4 その他  
今後のスケジュールについて
- 5 閉会

### (次第2)委員長あいさつ

- ・本日は26年度の市民奨励金の書類審査会ですが、過去最高の応募件数ということで審査が難しいかと思いますが、ご協力をお願いします。

### (次第3)平成26年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査

○事務局より、以下の事項について確認。

- ・まちづくり支援コースについては、「八戸市立市川公民館協力会」は佐藤委員が市川連合町内会に関係しているため不参加。
- ・「NPO法人はちのへ未来ネット」は浮木委員が社会福祉協議会職員で関係しているため不参加。

○平成26年度奨励金事業に対する書類審査結果をまとめた資料に基づき、事務局よりポイントを絞って説明。

○市民奨励金各コース事業（初動期支援コース4件、事業拡大支援コース8件）についてそれぞれ意見交換を実施。

○上記意見交換を基に、市民奨励金公開ヒアリング審査会(4/19開催)における質問事項を確認。

### 1位 NPO法人はちのへ未来ネット「子育て支援で花咲かせ大作戦」

#### ■ 事務局

- ・まちづくり支援コース5番になります。
- ・高い得点を獲得し、全体的にプラスの意見が多くなっております。

- ・プラス評価として「地域の波及効果への期待、地域の多くの団体や施設と幅広い分野で連携活動し、大きな成果を挙げている。自己資金も相当用意していること。」
- ・マイナス評価としては、「新たな展開としては物足りないのではないか。」
- ・アドバイスとしては中心街活性化という点で商店街との連携を具体的に模索してほしいということがあげられました。

■ 委員長

- ・事前の質問事項がないですが、この場であれば出していただいてもかまいません。いかがでしょう。

■ 委員

- ・質問ではないのですが、ねらいの一つとして中心街の活性化に触れてはいるのですが、具体的な活性化のための手段みたいところが触れていないとか、中心街でこちらの団体さんの自然と子育て世代の人たちがまちなかに来る、だから活性化になるのだという意味合いにしかとれなかったのが具体的なアクションに期待したいです。
- ・実際の商店街との接点を持つなど、子育て支援からの中心街に対して何を期待するのかというところを実際に聞きだしてみるとか、実際の活性化のためのアクションを考えておられるのかどうか今回の事業計画書を見る限りでは見えてこないという印象でした。

■ 委員長

- ・はい、今の〇〇委員のご意見について何かございますか。
- ・具体的な事業としては形式も決まっているかなと逆な見方もしていたのですけれど。

■ 委員

- ・人が集まれば活性化するということが書いてないのが弱いということですよ。
- ・商店街の人たちにどういったアプローチをしたらいいか、どう参加してもらえばいいかということを知りたい。

■ 委員

- ・この未来ネットさんの本来の活動からすると、子育て支援の実績もありますし、ノウハウも持っているし非常に力のある団体だと思います。

■ 委員長

- ・期待される効果という最後の方に、可能性は新しい取組みの発信、取組みの具体例として事業があげられているのかなというのは私の見方で。
- ・中心街に人が集まればというレベルよりももう少し答えられるかもしれません。プレゼンとか質問をさせていただければ。

■ 委員

- ・聞いてみてもいいのではないのでしょうか。

■ 委員

- ・25年の収支計画書が、ぱっと見た感じがラフな感じがします。予算案なり見ても分かるようにそれなりにもっとあるのでしょうか。事業の予算はきちんと作ってあるのですよね。それに対して収支予算の25年度はまだ途中経過だからね。
- ・数字はちゃんとなっているようすけれども項目の中身が大雑把なような気がします。

■ 委員長

- ・収支予算に関してはここに資料として出すときに、事務局から何か話はされるのですか。

■ 事務局

- ・今年度の決算はあくまで見込みで出していただいております。
- ・こども家庭課で委託している分の収支決算書を見せてもらったのですが、もっと細かいものを出してきているので、これは奨励金用に作った分だと思います。

■ 委員

- ・未来ネットさんは市の委託でもいろいろされていると思うのですがそれにプラスアルファという形ですか。

■ 事務局

- ・そうです。今までやってない事業を新たにやります。

■ 委員

- ・市の事業はそんなに増えないという…現状通り。
- ・そうすると増える分回るのかも知れないですけど、人手不足になるということは考えられないのですか。
- ・ボランティアさんを動員するということなのですか。

■ 事務局

- ・ボランティア 50 名が協力と書いてありますが、そのイベントごとにボランティアさんがいるのかどうかは把握しておりません。

■ 委員長

- ・では質問事項にしましょう。

〈質問項目〉

- 具体的な中心市街地活性化策が盛り込まれていないが、中心街で開催することによって、結果として中心街がにぎわうということか。
- 収支予算書がラフすぎるようだが、この応募用に作成したものか。
- 新規事業をこれだけやるのであれば、人員の確保をどのようにする予定か。

## 2 位美保野小学校地域学校連携協議会「美保野・金吹沢地区里山づくり」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コース 8 番になります。
- ・プラス評価としては「継続的な事業であって里山づくりがきちんとしている。地域や地域学校連携協議会の活動が里山地区に適した事業内容になっている。散策道と観察栽培園をもうける計画である。実現すれば新たな段階に行く。地域が一体となって目標に向かって力を注ぐ姿が他の地域にも刺激を与える。」という意見があげられておりました。
- ・マイナスの意見、質問はございませんでした。
- ・アドバイスとしてご覧のとおり意見がありました。以上です。

■ 委員長

- ・続いて皆さんからご質問はございませんか
- ・これは 2 回目ですか。

#### ■ 事務局

- ・3回目です。初動期支援コースで2回交付されています。

#### ■ 委員長

- ・他にございませんか。では次に進めさせていただきます。

#### 〈質問項目〉

- 特になし。

### 3位 八戸歴史研究会「八戸藩城下絵図の復元と復元絵図の刊行」

#### ■ 事務局

- ・まちづくり支援コース3番になります。
- ・プラス評価としては「八戸城下の設立と発展を知るうえで貴重な文化資料となり、また郷土の歴史学習に大いに貢献する。スケジュールが綿密で確実に実行できそうだ。」
- ・マイナス評価の意見として「新たな展開に繋がるとは思えない。刊行事業にしか見えてこない。専門性が強すぎてむしろ疑問を感じる。」といった意見があげられました。
- ・質問としては、200部の内訳を教えてください。無償配布、販売、それぞれ何部なのか。これに関しては、先ほど追加資料で内訳を追加して最後に付けましたのでご覧ください。
- ・補足説明ですが、寄贈予定が150部、販売予定が50部となり、販売予定価格が2,500円なので、50冊×2,500円で125,000円が事業収入になります。残り6990円が団体からの持ち出し分になります。
- ・アドバイスとしては刊行部数を増やし市民に働きかけようとする。刊行に関連した市民向け講座の開催などもされるとなおよいということがあげられておりました。

#### ■ 委員長

- ・ありがとうございます。このあたりから意見も出始めていますね。他、ご質問が質問事項としてありますでしょうか。
- ・こちらの場合はマイナス評価の意見も出始めていますのでその辺に関してご意見いただければと思います。

#### ■ 委員

- ・今回の申し込み団体の全体的な印象として、歴史を扱った団体が非常に多いということで、個人的には市川を最終的に基準とした審査の仕方をしました。
- ・市川の場合の全体的な印象として、地域ぐるみで実現を使用としている動きをすごく感じるので奨励金の意味合いからすると一番いいという位置づけにしました。
- ・対比してこの歴史研究会さんがとても専門性が強いし、計画書を見ると代表者個人の技量にかかっているという印象で全体的にどうなのだろう評価を高く見るべきなんだろうか、抑え気味なほうがいいのかどうかすごく迷いました。
- ・最終的に市川と比較して、本来の狙いからちょっと下見したほうがいいのかと評価しました。
- ・皆さんの意見を聞いてみたいと思います。

#### ■ 委員

- ・私はすごくよく評価したのですけれども、例えば市内を歩いていたとして、ちょっとした看板があって、まちの歴史的なものが書いてあるのを見るのですよね。
- ・そういうのを見ると、昔はここにこういうものがあったのだと知る手がかりを得られてこういうものもいいと思って見えています。
- ・その流れの中でこういうものもあればいいのではないのかなと、まちを見直すことも必要だと思うし、市民として知っておく必要があるのかなという気持ちがあったものですから、評価を高くしました。

#### ■ 委員

- ・私も内容を否定しているのではなくて、団体活動というか歴史地域ぐるみの活動という視点で見た場合はあまり地域性を感じないというか、取り組む流れとしては個性がすごく高いという印象で計画書を読ませていただいた。活動の中身を否定しているわけではないのです。

#### ■ 委員

- ・専門家がやればこうなるのでは。
- ・いろいろな団体が専門性をもってやればこういうふうになるのだろう。中身を否定するものではないけど、ランク付けをするとこうなってしまうという趣旨の意味はわかります。

#### ■ 委員長

- ・他に発言は大丈夫でしょうか。
- ・歴史ものというのはやはり専門性が出てきてしまうので、その好き好きにも係ってくると思うし、そこは点数で決めていくしかないのではないですか。
- ・専門性があるから生きる部分もあるし、一概に専門性がどうだかというのではなく、歴史はそういうものだとは私は思っていました。
- ・内容というのではなく、個人的な作業に近いところで奨励金の対象の団体としてはどうかと、団体の意味合い的なことを話されていると思って聞いていました。

#### ■ 委員

- ・単純な疑問ですが、奨励金の補助率は予算の8割まででしたか。
- ・自分たちの使う予算が2割だと思っていいのですが、そうではないのですか。
- ・事業収入も入れて2割という考え方でいいのですか。

#### ■ 事務局

- ・あくまで補助率は80%なので20%は自己負担ということで、その20%の自己負担分を販売してもいいという考え方です。

#### ■ 委員

- ・販売する分も含めて2割越えればいいという考え方なのですか。

#### ■ 事務局

- ・はい。まったく売れなかった場合は会の持ち出しになるという考え方でいいです。

#### ■ 委員

- ・単純にそう考えると多く作って多く販売すればいいって考え方になりますけど2割はすぐ超える。

■ 事務局

- ・2割超えた分に関しては実費販売とはいえ奨励金を使って作っているもので収入になってしまいますので、奨励金に関係する分は50部のみ販売という話になっております。

■ 委員

- ・ただどこからが奨励金関連ではないと、線引きできないから。

■ 事務局

- ・今回は200部の見積もりを提出してきたので、200部のうち150部は寄贈分、50部は販売分として、20%以上の売上分を返してもらうことはできないので、今回の販売は50部で抑えてくださいという話になっております。
- ・ただ、その後実費で印刷製本して売る分に関しては、研究費などの分はありますが、印刷製本自体に奨励金は入っていないので、もしそういう状況ならその時相談事項として判断しましょうということです。

■ 委員

- ・販売がからんでいると正直奨励金の取り扱いが難しくなりますね。

■ 事務局

- ・今年度は、もしそうするのであれば事前に市に話を通してもらうという約束をしております。
- ・あまりにも営利的な売り方だとこちらもお話しなくてはならない。

■ 委員長

- ・予算的には印刷製本費が一番多いですけど、取材などは自腹でやるのでしょうか。
- ・事業の話ですけど、私も歴史でまとめようとしてやったことがあるんですけど、理解してもらえないです。「ひとりでやってるんだろう」みたいな判断をされます。
- ・私が所属している団体さんも予算つけるのに苦労しまして。結局つかなかったのですが、個人的な作業がしたかったら個人でしろと言われまして。どういうものができるか分からないのですけれども、視点をもっている方ですと残しておくことは大事なことです。
- ・プレゼンでは過去にやったものがあれば非常に助かるなど。どんなのをやってきたか、資料としては準備していただいたほうがいいですね。

■ 事務局

- ・デーリー一東北で連載していた方です。その連載をまとめた本を発行しています。

■ 委員長

- ・その活動も載っていますけど、他に会として作ったものもあると書いてあるのでは。

■ 事務局

- ・現在、売っているものもあります。
- ・団体概要書の活動実績に記載されているものとして、『探訪 八戸の歴史』『三社大祭の歴史』があり、『八戸地域史』は今50号が出ております。

■ 委員長

- ・もしこちらの団体に奨励金を出すことになったら、歴史にはまって研究されている方々が今後一気に参加してきそうですね。

■ 事務局

- ・そうですね、過去にない例なので。

■ 委員長

- ・八戸の図書館行くと資料がいっぱいありますよね。研究されている方が多いのと、どこでお金かけてやっているのか疑問でした。

■ 事務局

- ・今回、歴史本刊行の事業の応募が3つありましたので、これを期に考えていただければと思います。

■ 委員長

- ・これは「まちづくり」かどうかですね。
- ・「個人の研究」と考えるか「まちづくり」と考えるかこの判断がちょっと難しい。

■ 事務局

- ・今回の判断が範例として、一つの基準になると思うので。

■ 委員長

- ・そこは視点として新しい試みに近い。
- ・その場でたくさんの方が集まるというイベントとしての活動ではないので、その意味では皆さんの市民貢献性というのは大事な評価になりますけど。
- ・個人的な経験では評価してもらえないんだなという経験がありますので、そういうのはヒアリングのときにでも聞いていきたいと思います。
- ・「協働のまちづくり」という視点でみたときに疑問を感じる部分があるかも知れない。

■ 委員

- ・市川とは対極にあると思う。

■ 委員

- ・作った本を利用して何をするのかというところが気になる。寄附して終わりだと違う。

〈質問項目〉

- 過去に発行した本を教えてください。
- これまでの印刷製本費の確保の仕方はどのようにしていたか。
- 寄附した先の使い道について具体的に教えてください。

**3位 すまもり中世の田んぼクラブ「中世の田んぼ跡活用による島守の活性化事業」**

■ 事務局

- ・初動期支援コース3番目になります。
- ・プラスの評価としては、「事業変更がないもので継続していくと思う。発展性可能性が事業を継続することで見えてくる。注目されることで中世の田んぼ跡の保存ということには有効。単に農業という観点ではなく住民へのアプローチが多角的である。全国で3つしか例がない。」
- ・マイナスの意見としては「毎年必要となる費用の割合が高く資金を獲得しないと継続が見込まれない。実現性としては未知数である。」
- ・質問として、「この中に田園空間整備事業がこの事業とどう関わっているのか分からない。」



前の事業の継続がどのように行われてきたか。農水省がやっている田園空間整備事業とどう関わりがあるのか。」というのがあげられました。

■ 委員長

- ・この事業についてのご意見をください。

■ 委員

- ・「田園空間整備事業」や「田園空間博物館」と書いてあるが、関連性を教えてほしい。

■ 事務局

- ・そこは質問事項にしてはどうか。

■ 委員

- ・南郷ジャズフェスティバルやそばとつなげていく気はあるのかなども、気になる。

■ 委員長

- ・この団体さんがどこまで広げていこうと考えているのか、まだそこまでのパワーがないという判断ということであえてこのような活動に抑えているのか。

■ 委員

- ・目指す方向としてはよいと思う。後は実現性に関わるころだ。米つくり 700 年ということを目前にだして特産物か、商品開発にたどり着ければ活性化になると思う。

■ 委員

- ・継続できるかどうか不安なところがあるが初動期なのではないのかな。期待しましょうということでのよいのかな。

■ 委員

- ・田園空間事業として指定はされているが、結局事業がないので、地域でなにかやろうということだろう。初動期支援コースであるし。

■ 委員長

- ・中世の田んぼといっても今植えているのは普通の苗なのでしょうね。
- ・そうすると、企画を練り、出していかないと 700 年だけでは見に来てもらえるだけのものがないので。
- ・まずメンバーが集まってくれる下地づくりをしていきたいということであれば、それに特化してもいいのではないかという印象ですね。
- ・初動期支援コースを使って、どのような団体にしていきたいのかという質問ですね。

〈質問項目〉

- 農林水産省の田園空間整備事業との関係を知りたい。
- そばやジャズとのコラボはあるのか。

## 5 位 八戸市立市川公民館協力会「『市川の歴史』（仮称）刊行事業」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コース 1 番目です。
- ・プラスの意見としましては、「地域連携の絆が生まれている。話し合いなどを積み重ねた跡が見られる。地域史講座などへの展開が期待できる。ふるさとの歴史を知り、楽しさを宣伝でき

る。地域史刊行後が大事で、地域史の講義を開講したり、小中学校の学習に取り入れたりできる。歴史を感じるツアー開催を予定している。助成金頼みではなく、独自の資金を担保しようとしている。」

- ・マイナス評価としては「執筆者、読者が一部の住民に限定されており、広がりを持てるかが課題である。」
- ・皆様にお配りした以外に添付資料としてこのようなサンプルも提出されております。これはすでに発行されている市川を調べる会の会報を編集した分と、後は創立 30 周年の『市川とともに』というものです。以上になります。

#### ■ 委員長

- ・データ自体はある程度あるのでしょうか。これは編纂が主なのでしょうか。

#### ■ 事務局

- ・それをもとに加筆修正しますが、本格的に発行するのであれば著作権などの取り扱いを厳密にしたいということで、市史編纂室からの指導をしてもらい。もう一度編集しなおすということでした。

#### ■ 委員長

- ・なるほど。予算がもともとそんなに取られてないので。

#### ■ 事務局

- ・2 年の複数の事業で計画しておりましたので、1 年目が 5 万円、2 年目が多めにと言うことでした。

#### ■ 委員長

- ・可能性があるのですね。

#### ■ 委員

- ・作り始めるのはいつですか。

#### ■ 事務局

- ・原稿はそのサンプルの状態、ボリュームが多いので、1 年目は加筆修正などの編集がメインで、発行印刷できるのは 2 年目になるということで 2 年計画にしたそうです。

#### ■ 委員

- ・〇〇委員、知っていたら教えてほしいのですが、市川地域振興協議会は仮の名前という風になっていましたけど、作る予定というか設立する実現性は高いのですよね。

#### ■ 委員

- ・この資料が結構いろいろな資料が入っていてちょっとわかりにくいのですけれども、実際振興会自体はもうあるのかということですね。

#### ■ 委員

- ・その前の企画などが入ってしまっているのですが、市川のこういった新たな組織というか連合町内会みたいな兼ねあわせみたいなものはどういったすりあわせをしているのだろうかと思っていますが、その辺の情報をお持ちでしたら聞きたいなと思いますけど。
- ・こちらの振興協議会の目指す項目として地域福祉の推進とか安心安全の推進とか地域文化の向上とか健全育成の推進とか。

#### ■ 事務局

- ・市川地域連合町内会の附則の第 5 章の中長期展望のところの話ですか。

#### ■ 委員

- ・市川地区連合町内会の会則の4ページに第5章附則3条で市川振興協議会の設立を目指すものであると。図がついていていわゆる地域の全部の団体が入ったものにしたということのようだが。

#### ■ 委員

- ・これ自体が連合町内会を作るときに前のももとの資料なのですけれども現状で諸団体が入った形で市川地区連合町内会ができています。それで、その諸団体との連携は進めているところですよ。
- ・そういった意味での振興協議会はまだできていないのですけれども、中期展望のところまでは進んでいるとなっています。
- ・この資料が本当に60周年の資料など、そういったものが付いているのでわかりにくいものになってしまっていると思うのですけれども、あくまで市川諸団体の刊行事業ということで。

#### ■ 委員長

- ・事業の話に戻りますか。

#### ■ 委員

- ・刊行事業ということで、1年では間に合わないので2カ年にしましょうというわけです。
- ・正直な話、これは補助金なしでもやれるくらいの内容でもあるのですが、補助金がほしいというのは、補助金をもらっているくらいの事業だとアピールしたいという意味のほうが文面からすると強い。だから補助金の額も少ない。ただ2カ年をどう評価するかというのが難しい。
- ・今回評価してしまうと自動的に来年もにならざるを得ないのではないかと考えているので、今回5万円いいですよ。じゃあ来年は駄目ですよっていうのが難しくなるのでは。2年目も評価するのが難しくなるのではないかと。

#### ■ 事務局

- ・来年はヒアリング審査なしで、書類審査のみになります。

#### ■ 委員長

- ・そういうケースがいままでなかったの、そこは特殊なのではないかと。

#### ■ 事務局

- ・1年目に採択になっても、予算2年分を確約するわけではないです。
- ・単年度でやるものなので2年間で計画を出していただいて、1年目に採択になっても、2年目はもう一度書類を出していただいて審査します。その代わりヒアリング審査はしません。

#### ■ 委員

- ・ヒアリング審査はしないのか。

#### ■ 事務局

- ・実施要領では複数年計画事業は単年度ごとに申し込みすることになっており、2年目は書類審査のみで、採択されれば2年目の分も奨励金を獲得できることになる。

#### ■ 委員長

- ・2年目かならず出るものではないということですか。

#### ■ 事務局

- ・はい。これについて、団体に説明しており、理解していただいています。

■ 委員長

- ・その場合は書類審査だけで点数をもとにして他団体さんのものと絡めて最終的には点数付けすると。

■ 事務局

- ・継続助成の可否と奨励金額の審査になるので、新規の団体とは別枠になります。

■ 委員

- ・今年度は5万円に対してこの事業が採択されるかどうか。
- ・この事業を八戸市が支援しているというお墨付きがほしいのであって、予算の問題じゃない。

■ 委員長

- ・では次にいきたいと思います。事務局よりお願いします。

〈質問項目〉

- 特になし。

## 6位 笑ってキラキラサークル「エリート高齢者育成事業」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの1番目になります。
- ・プラスの評価として「新たなものに積極的に取り組む姿勢。中高年、団塊の世代がこれでの地域や技術をいかせる場なのでよい。次へのステップにつなげていこうと前向きである。」
- ・マイナス意見として、「個性的ではない。」というのがあげられております。
- ・質問、アドバイスはご覧の通りとなっております。以上です。

■ 委員長

- ・ではこの団体について意見をお聞きしたいと思います。

■ 委員

- ・これまでやってきたことを発展させる形で考えているのでいいと思います。

■ 委員長

- ・そうですね、初動期の場合は会としての何年かやっていく下地づくりとしての意味合いが強い奨励金になるので。
- ・ハンドベルはこれから買うのですね。
- ・こういうハンドベルを使うのは高齢者に対して初めて聞くのですが、どなたか知識のある方見聞きしたことのある方はいらっしゃらないですか。

■ 委員

- ・高齢者施設は歌とか踊りとか単純なものが多い。劇はあまり長いストーリーだとむかない。

■ 委員長

- ・これも市川地区なのですか。

■ 事務局

- ・はい。元々市川公民館で活動していて、公民館で募集要項を見て知って応募したそうです。

■ 委員長

- ・なるほど、エリート高齢者育成と書いてあるので。

■ 委員

- ・エリート高齢者という表現は元々あるものですか。意味はわかりますが。

■ 委員

- ・そういうモチベーションを持ってやっていきたいという意気込みを感じる。

■ 委員長

- ・趣味の世界が元になって、地域社会に貢献するという方向でやっていこうということかもしれませんね。

〈質問項目〉

- 特になし。

## 7位 八戸地域神事流鏝馬再興会

### 「八戸藩開藩 350 周年記念・加賀美流神事流鏝馬再現事業」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コース 7 番目になります。
- ・プラス評価としましては、「今まで準備してきたものを簡単に 350 周年の奉祝祭事として実施するものである。流鏝馬を例年行事として定着させること。相当の自己負担をしている。流鏝馬の再興を目的に組織された団体であり、団体の専門性が発揮されていること。」
- ・マイナス評価として「例年行事ができるかが疑問である。長者山新羅神社の理解と協力が得られるかがポイント。」
- ・アドバイスとしてはご覧のとおりとなっております。以上です。

■ 委員長

- ・シビアな話ですけど、この辺りから点数・予算面で分かれ目になってきます。
- ・特に 6.7.8 位に関しては点数が近いところになるので、いろいろな意見や質問を言っていかなければいけないのかなど。
- ・皆さん質問をお願いします。

■ 委員

- ・質問のマイナス評価の中にありましたけれども、実際に事業化するにあたって、自立性が気になります。
- ・方向としてはいいですが、実現可能性がない中で奨励金 50 万を出すわけにはいかないので、今の段階では明確にできるのかできないのか、方向として考えているから、今年奨励金がほしいのか、その辺は確認したいです。
- ・仮に、50 万交付されて、予算の面はクリアしたとして、参加していただく方との関係性、事業に出ていただく方との連携が取れるのかどうか、その辺が資料を見る限りぼやかして書いてある。
- ・その辺りが心配事としてありますので確認をさせていただきたい。

■ 事務局

- ・長者山の神社と事業との関係性というところで実施できるかということでしょうか。

■ 委員長

- ・「市中行列に加えていただければ」というところも曖昧で、実現性という点で不安である。
- ・事業計画書の資料が非常に多いので、読み込めていないのかもしれないが、日付の記載が無く、スケジュール化されていないのでその辺はどのように考えていらっしゃるのか。
- ・事業日時、場所、方法を踏まえて記入となっていて、事業計画書の事業の内容を書いていたかと思いますが、これは三社大祭の話を書いているのか。とすると三社大祭の日付をかいておいていただかないと。

■ 事務局

- ・事業計画書の様式3の3に時系列の記載があります。

■ 委員長

- ・ということは予算面ですね。

■ 委員

- ・馬匹借上料とトラックの借上料とトラックの交通費で49万。

■ 委員長

- ・4日分というのは移動の時間も入っているのか。

■ 事務局

- ・10月26日が本番で、移動分がその前後24日と27日で足して4日ということです。

■ 委員

- ・「毎年施行する例年行事に定着させます」とありますが、収入がない中で毎年できるのかを質問事項にしてほしい。

■ 委員長

- ・どれだけやるのかですね。決起なのでしょう。会としてPRをするための事業なのだと想定されます。
- ・その辺のことは聞かないと。もし会としてのステップアップとしてこの事業をやるのであれば来年この事業をやる意味もないので。あくまで会の価値をあげるためにこの事業を企画したのであれば構わないわけで。
- ・同じ事業を来年も継続させないといけないというものではないだろうが、そう記載されると、来年どうするのか当然問われる。
- ・初動期でなく、まちづくり支援コースでも、会としての発展を目的としてほしい。
- ・そういう目的であればやっていただいてもかまいませんが。やった後にどうそれをいかしていくかという次のステップの話を聞いていくことになるかもしれません。
- ・では、次に行かせていただきます。

〈質問項目〉

- 毎年開催予定となっているが、会費収入がないため、毎年寄附金を財源にする予定なのか。
- 馬の調達（5頭4日分）にかかる諸費用が49万円予算化されているが、例年行事化するのに財源の確保はどうする予定か
- 「三社大祭の市中行列に加えていただければ」とあるが、これから交渉するのか。
- あまり関係性がよくないようだが、長者山新羅神社の理解と協力が得られるのか。

## 8位 八戸三社大祭歴史等を研修する会 風流会

### 「八戸三社大祭山車・大正時代の山車再現事業」

#### ■ 事務局

- ・まちづくり支援コース3番目になります。
- ・プラスの評価としては「当事業の実施による団体の発展が期待できる。一般市民にも新たな視点を提供することになる。今回の助成金から選考漏れがあった場合も山車の再現を計画していること。寄附金をつのる努力をしていること。三社大祭を新たな面からPRできる。」
- ・マイナスの評価としては、「費用もけっこうかかるので継続してやるのは難しい。」
- ・自立性6.8点。プラスの評価として、「」マイナスの意見としては「ただ他の財源も見つけるつもりもあり、山車の車体確保までの資金難ということで、一時的。大正時代の山車を再現する目的が不明確。」という意見が上げられております。
- ・アドバイスはご覧の通りとなっております。

#### ■ 委員長

- ・はいこちらの事業について、ご意見ご質問等ございますでしょうか。
- ・質問内容が難しいかもしれませんが、マイナスの意見として出ているところを質問としてだしてもいいかもしれません。
- ・「観光客にお見せする」というのをPRにしていますが、見方によってはPRにならない場合もあります。
- ・むしろ大正時代の山車を私たちが知らないので、PRというよりも歴史資料として残していく、再現していくということであれば、審査の意味合いも変わってくる。
- ・山車組の会でそういうのをきちんと残していこうということであれば、先ほどの歴史編纂と同じ意味合いになります。観光に繋げてしまうと否定的な意見も出かねないと思いました。
- ・ということで、大正時代の山車となると分からないですね
- ・写真でしか残っていないから、実際再現してみようというだけではPRにはならないのではないかな。なったとしてもそれをとりあげてPRしようとする、ニュースバリューがないとニュースでとり上げられない。「大正時代の作り直しました」だけだと厳しいかもしれない。
- ・やはりなぜ大正時代なのか、目的が明確でないと、点数としては下がってくる。
- ・資料がないということも大丈夫なのでしょうか。

#### ■ 事務局

- ・考えられることとして、第3号様式の「事業の実施により期待される効果」の欄にあるように、一連の流れとして捉えるのに大正時代が抜けているということ。
- ・あとは明治大正昭和というところでどう変化していったか流れをみせるのにそこが抜けているということが考えられます。

#### ■ 委員長

- ・その辺の情報は市民から得られそうなのではないでしょうか。消失してないという状況のなかで。

#### ■ 委員

- ・採択されるか、されないかのふるいにかけて、流鏝馬と三社大祭の大正時代の山車だと、お祭りになったときに山車のほうが豪華絢爛な山車の中に運行されるのが想像できます。大正時代の山車が運行されていくという時代の流れがなんとなくイメージできるので。

- ・流鏝馬のほうは、希望的な計画が多くて、新羅神社との関係性は解消されるのか本当に実現できるのかと、神社との関係があるのでできれば順位を入れ替えたいと私は思う。

■ 委員長

- ・その辺は質問してもいいのではないのでしょうか。
- ・本当に実現出来るのか、希望的観測が多かったので、現状は具体的にどうなのか。

■ 委員

- ・作った後はどうなるのか。

■ 事務局

- ・三社大祭に出した後ということであれば、市に寄附してもいいし、そこは未定ということでした。

■ 委員長

- ・明治のものはあるのですか。大正のものだけないと言われていましたが。

■ 委員

- ・終わった後にどこかに保管するのであれば場所代がかかる。解体して終わりだとせっかく作ったのにもったいない感じがする。

■ 事務局

- ・団体側は残したいみたいですが、具体的な計画は把握しておりません。

■ 委員

- ・運営するのに寄附金と奨励金頼みなのは無理があるし、市民が見たとき魅力のある山車なのかどうか。
- ・実際ミニチュアで作ってみてはうちに展示してみても効果が得られたら大きいものに変えるという手もある。いきなり普通の山車でなくてもよいのでは。

■ 委員

- ・最悪市民から資料が集まらなかったとして、盛岡とかの資料でできる状態なのですか。

■ 事務局

- ・後ろに付けている資料のように作るめどはたっているようです。
- ・この会は実際に山車を制作している方々の集まりで、山車の歴史を学ぶなど、技術向上のための情報共有などを行っているそうです。昔の作り方を忠実に再現しつつ、今やっているものに技術なども活かせばいいということなので。
- ・あとは八戸テレビが記録して残しておきたいということで、製作過程も記録して最後は上映会をするということになっていて、そういう形で残していければいいとのことでした。

■ 委員長

- ・そういう残せるような資料があればいい。作って終わりだともったいない。

■ 事務局

- ・事業計画書にも最後上映会すると書いてありますね。

■ 委員

- ・作ったものをどう活用するのかによっては評価が分かれるところだけど。

■ 委員長

- ・この大正時代の山車を展示する目的は先ほども聞きましたけれども観光ではなく、技術的なものを追求するということですね。



- ・山車作りの人たちは設計図も何も無い状態で作りますよね。頭の中に入ったもので3Dにして立体にしていくのでいつもすごいと思って見ているのですけれども。
- ・そういう意味で作って見ないと伝承されないというのなら、作ってみる価値があるのでしょうか。
- ・目的がPRということになっているけれど、PRだけが目的だと、達成されるのは困難な気がします。
- ・実際に過去の大正時代の作り方を検討しながら再現していく。そういうのであれば意味があるでしょう。
- ・その点については事業内容の目的とやりたいことがずれている気がするのですよね。
- ・なのでその残し方については質問するかもしれないです。どうやって残していくのですか、でもいいし、作っていく人についてどのように伝承していくのでしょうかといった質問をすと思います。
- ・写真やテレビの映像で残して、いわば山車作りの人たちを育てるといったことなのでしょう。

#### ■ 委員

- ・現在も山車作りは設計図も何も無く作るのでしょうか。

#### ■ 委員長

- ・下絵は書くと思いますけど設計図は書かないでしょう。

#### ■ 委員

- ・設計図を書いて残すなら違うと思うのですが。

#### ■ 委員

- ・平面図だけです。

#### ■ 委員長

- ・平面図を立面図に起こすのですよね。そういうところを伝承したいということであれば、歴史的価値ということで、意味合いが違ってくる。
- ・これまで出た資料の話とかもなにもまだ載っていないので、実現性の面でもお伺いするかもしれないです。
- ・では次の第9位参ります。

#### 〈質問項目〉

- 大正時代の馬車山車の資料がないので、「広く一般市民から資料を提供してもらおう」としていて大正山車解明が目的なのか？
- この事業の一番の目的は何か。書類では観光PRとなっているが、大正時代の山車の再現や資料収集、保存などが本来の目的なのか、
- なぜ大正時代なのか。大正時代の山車を再現する目的と理由を教えてください。
- この山車を作成し、展示した後、どうする予定か。保存するなら場所代がかかるのでは。

### 9位 地酒研究会はちのへ

#### 「東北6県の連携による新たな価値創造を目指す広域的連携事業」

## ■ 事務局

- ・まちづくり支援コース 6 番目となります。
- ・プラスの評価として、「24 年 25 年とイベントを実施する実績がある。団体の新たな展開につながる。食や観光において青森のあらたな魅力を発信し、新たな提案をすることは地域の活性化につながる。八戸だけで完結するのではなくて他県を巻き込むなどの先駆性がある。」
- ・マイナスの意見として、「地域社会への貢献やありようはさまざまだと思うが単に貢献度としてとらえると産業振興に貢献しており、市民奨励金制度と照らしたら評価のわかれるところである。地酒促進の販売イベントの意味合いが強い。商業企画といえるのでは。」

## ■ 委員長

- ・はい、ありがとうございます。こちらの事業についてご意見ご質問をお願いいたします。
- ・概ね 7 割ということなので、34.8 点ですから、点数的にはクリアしています。
- ・私の質問としては、地酒を PR する時に、JR の新幹線にある冊子のように、地域性とお酒の関係性や、歴史とお酒の関係性、なぜこの風土にこのお酒がうまれたのかということまで考えてやってくのが聞きたいです。
- ・飲むためのイベントやっているのは分かるけれど、「日本酒」ではなく「地酒」と表現しているところに対してストーリーが作れるかということまでであると、重みのある提案になってくる。ただそこまでない。だからそこは聞きたいところです。
- ・この地域だからこの日本酒。八戸だからこの酒。というのがないとイベントとしては単なる飲み会になりかねない。
- ・そこまでいくような会になってほしいです。
- ・これだけのままだとイベントの話だけになっているので、できればそこまで準備できれば。
- ・「地酒」は結構重い言葉だと思っています。「日本酒」ではなく「地酒」なので。
- ・「地酒地料理」と書いてありますからぜひ次につなげていく企画であれば点数が高くなると思うのですが。
- ・「地酒」と風土とのつながりのアピール方法を質問事項にしたいです。

## ■ 委員

- ・この企画に関しては商業イベントの意味合いが濃く、市民奨励金制度を改めて読み直してみても、いまいち合致しないと判断し、採点しました。

## ■ 委員長

- ・私も合致させようとして先ほどのような話になりました。それがあると合致してくるのでよね。
- ・だから商業ベースにするともったいない。商業ベースにするとそぐわなくなってしまうと思っています。

## ■ 委員

- ・事業計画を見ると、イベントが 10 月にあって、そこまでが全部イベント打合せになっていて 11 月がイベントの反省会報告会になっているので、それは魅力が全くないというのもポイントが低い、広がりが少ない。

## ■ 委員

- ・難しいですよ、イベントをやるのであれば、何をねらいとしているのかが出てくるから。

## ■ 委員長

- ・ 飲食業の企画としてそれだけやるのであれば、奨励金制度の意味合いとしては、まちおこしの領域の中でもう少し深めてほしいです。

### 〈質問項目〉

- 大正時代の馬車山車の資料がないので、「広く一般市民から資料を提供してもらおう」としていて大正山車解明が目的なのか。
- この事業の一番の目的は何か。書類では観光 PR となっているが、大正時代の山車の再現や資料収集、保存などが本来の目的なのか。
- なぜ大正時代なのか。大正時代の山車を再現する目的と理由を教えてください。
- この山車を作成し、展示した後、どうする予定か。保存するなら場所代がかかるのでは。

## 10 位 館地区安全パトロール会「館地区安全パトロール会」

### ■ 事務局

- ・ 初動期支援コース 2 番目となります。
- ・ プラス評価として「発展的に館地区全域を巻き込む安全パトロール会となり、継続的な活動がつづけられると思う。地域の安全安心なまちづくりへ向けての活動であり公益性が高い。子供の健全育成と事故未然予防に努めることは安全安心なまちづくりのために大切。」
- ・ マイナス評価として「一見目的は達成されているように見える。従来との活動が不明確である。」
- ・ 質問事項としては、「地域の各団体の連携はどうしているか。計画書によれば毎週水曜日にパトロールとあるが頻度として十分か。水曜日のみなのはなぜか。八幡パトロール会との関係性が知りたい。」ということがあげられております。以上です。

### ■ 委員長

- ・ 質問が 3 つ出ていますので、これ以外でご意見ご質問などございますでしょうか。
- ・ 初動期支援コースですが、会とすればもう活動しているのですね。

### ■ 事務局

- ・ 安全パトロール会とすれば 25 年の 3 月から活動しております。

### ■ 委員

- ・ 主な活動場所としては明治小学校とか明治中学校とかのあたりかと思うのですが、計画書の段階だと、どこが小学校でどこが中学校なのか分からない。

### ■ 委員長

- ・ 中学校でも今後活動もされていくのかという質問ですね。

### 〈質問項目〉

- 地域の各種団体等の連携はどのようにされているのか。その成果は。
- 計画書によれば毎週水曜日に徒歩で巡回を車両によるパトロールとあり、頻度として充分なのか。水曜日とする理由が存在するのか。
- 「八幡パトロール会」との関係性が知りたい

- 小中学校と書いているが、計画書には活動場所が明治小学校ばかりになっている。中学校での予定はないのか。

## 11位 是川地区振興会「是川の歴史探訪ガイドブック刊行」

### ■事務局

- ・まちづくり支援コース4番目になります。
- ・プラス評価として、「新たにガイドブック発行ということで発展性が認められる。是川の遺跡をPRすると八戸市のPRにつながる。」
- ・マイナス評価として、「刊行に伴う地域の動きが明確ではない。選考もれになった場合には実施しない。」
- ・アドバイスはご覧の通りとなっております。以上です。

### ■委員長

- ・こちらについてご意見ご質問ございますでしょうか。
- ・昨年ガイドマップとリーフレットを作って、この後さらに詳しくガイドブックということで具体的にどういうイメージか、必要だというニーズがあってこの事業をやると、もしくは専門的により深い歴史の資料が必要ということでやるのか。
- ・それとも会としてガイドブックを発刊するという活動で会の発展をされていこうとしているのか。
- ・その辺の事業目的がはっきりしていない点がありますので、会の発展がどのように進むのかというところをもう少し掘り下げたアピールを聞きたいと思っています。

### ■委員

- ・いままでの特色をどう生かしていこうとしているのか。情報化することで、地域との連携がもう少し見えてくるとアピールの仕方がもっと強くなってくるのかと思っています。

### ■委員長

- ・まちづくり、まちおこし、是川の地域おこしという方向であれば、そこまでのものは他団体に比べると薄いので、点数が低くなってしまうと思って見ていました。

### 〈質問項目〉

- この事業を行うことにより、会の発展がどのようになるのか。
- 縄文館や地域との連携がもう少し見えてくるといい。
- 「まちづくり」、「まちおこし」というところまでこの計画書では見えてこないのか、このガイドブックをどう活用するのかお聞きしたい。

## 12位 吹上体育会グラウンド・ゴルフ普及プロジェクトチーム

### 「やってみよう、楽しもうよ、グラウンド・ゴルフ」

### ■事務局

- ・初動期支援コース4番目になります。
- ・プラスの評価としては「吹上体育会として実施してきた事業を独立した形でグラウンドゴルフを普及し、地域づくりに取り組もうとするものであり、継続性がある。グラウンドゴルフを通じて高齢者のひとり暮らしや要介護の方々の要望を地域でするのはいいことだと思う。」

- ・マイナス評価として「用具の購入は継続的な活動をすることにつながるが、継続的な利用に繋がるとは限らない。高齢者の見守りまではいかないのではないか。弱者の見守りという目的と三世代交流とは間接的ならともかく直接的には結びつかない。」
- ・質問事項として「今までもグラウンドゴルフ大会は行われたと思うが、課題はなかったのか。その課題解決につながっているのか。」ということがあげられております。以上になります。

■ 委員長

- ・質問一つでていますけれども、ほかご質問ご意見などありましたらどうぞ。

■ 委員

- ・道具は持っているのでしょうか。

■ 事務局

- ・ないようです。

■ 委員長

- ・グラウンドゴルフは「スポーツを通じて見守りを」という形で生かしている事例はあるのでしょうか。
- ・駅伝にしろグラウンドゴルフにしろ、今までなかなか評価を出せてこなかったイメージがあるのですが。

■ 事務局

- ・町内会活動の一環としてと言う意味合いではありますが。

■ 委員長

- ・今回は応募団体が多いので「町内会の活動の一環」だけではどうしても評価が低くなりますね。

■ 委員

- ・町内会の組織というわけではないのか。その辺の関係が分からない。
- ・グラウンドゴルフは体育振興会中心にやるのか。

■ 委員

- ・市総体でもグラウンドゴルフはやっているところもあるし、そう考えると今、グラウンドゴルフだけというのはいろいろな団体があるなかであまり変わらないと思います。その辺聞いてみたいです。

■ 委員長

- ・体育会総会ではグラウンドゴルフと書いていますけれど、それとは別に立ち上げるのでしょうか。

■ 事務局

- ・吹上体育会と連町との関係についてということでよろしいですか。

■ 委員長

- ・関係というか、連携していくのか、単独でプロジェクトとして立ち上げていくのか、地域の中でどのような位置づけでいくのかという質問です。

■ 事務局

- ・まず吹上体育会と連町の関係。その吹上体育会と今発足したプロジェクトチームとの関係ということでよろしいですね。

■ 委員

- ・プロジェクトチームで体育会ではないのか。

■ 委員長

- ・ないですね。体育会との資料を付けられているのでその辺はつきりさせていただかないと。ちょっと混乱しますね。

■ 委員

- ・グラウンドゴルフ大会を開催するだけだとちょっと足りない。開催したことによる効果が期待できるのか、そこをもう少し話してもらえれば点数も少し高くなるのではないかと。

■ 委員長

- ・初動期なので今後の活動のフィールドはどのように繋がっていくのか質問になりますね。
- ・今の状態だとプロジェクトと言いながら個人参加になってしまっているようなので、その辺がないと地域に対する奨励金は出しにくくなってしまいます。もう少し明確にする質問をしたいと思います。
- ・あとは他に「見守り」という言葉が記載されておりますけれども、その具体的な活動を質問することになります。
- ・地域で見守りの関係でスポーツをとかの資料を山ほど見てきているので、このままでは少し弱いかもしいって印象をもってしまうのはやむを得ないのではと思ってしまう。

■ 委員

- ・以前大会後にアンケートを取るというのがあったが、そういうのがないと難しい。

■ 委員長

- ・地域とどう繋がっていくというのが必要な話だと思います。
- ・それを意見としてさせていただくことになってしまうと思います。
- ・奨励金の中で審査させていただくのであれば。
- ・というわけで全部の団体がこれで終わりました。
- ・あとは時間も押していますのでメールでもいいです。
- ・個別に事務局のほうに気づいた点、気になった点などあれば送っていただけたらというのが事務局側の意見ですが。
- ・いかがでしょう。
- ・では本日の案件終了いたしましたのでこれにて議事を終了して、進行を司会にお返ししたいと思います。

〈質問項目〉

- 今までもグラウンド・ゴルフ大会等が行われたと思うが、それで課題等はなかったのか。その課題解決につながっているのか。
- グラウンド・ゴルフの道具は全くそろっていないのか。
- 吹上体育会、連合町内会との関係性を教えてほしい。また、今後のこの会の位置付け、会と体育会の関係なども。
- 今後の活動の仕方は。
- この事業と高齢者や要介護者の見守りとのつながりを教えてほしい。

## (次第4) その他

### ○公開ヒアリング審査会での変更点について

#### ■ 事務局

- ・10月の委員会において、「公開」の考え方について意見をいただいておりますので、それをもとに考えた変更点（案）です。
- ・審査の流れとして、「質疑応答だけではなく、団体から事業のPRする時間を設けたらいいのではないか。」という意見がございましたので、冒頭5分以内で事業のPRをしてもらい、その後10分間の質疑応答をする。ということで今回は実施したいと思います。
- ・事業PRは必ずしもPRではなくてもよく、団体に事前に送付している質問を踏まえたPRでも、質問の回答でもいいです。
- ・次に、「審査前の団体が見られなかった。」という意見から、審査前の団体にも公開し、入室制限はしないことにします。入退室は自由で全員そろっていなければならないというものはありません。
- ・観覧を希望しない人もいるかもしれないので、控え室は設けることにしました。

### ○市民提案制度（市設定テーマ）募集結果について

#### ■ 事務局

- ・メーリングリストで意見募集をしておりましたが、1件の応募がありました。  
「中心街におけるカラス被害対策事業 提案課： 環境政策課」
- ・5～6月に広報はちのへやHPで告知し、提案していただける団体を募集します。

### ○今後のスケジュール

#### ◇4月19日（土） 平成26年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会

13:00～ 市庁別館2階 会議室C

- ・**事前打合せ** 審査会の流れの確認など

13:30～ 市庁別館2階 会議室C

- ・**審査会** 「元気な八戸づくり」市民奨励金のH26年度事業（12件）

#### ◇4月24日（木） 平成25年度 市民奨励金事業の評価

18:30～ 市庁別館2階 会議室B

- ・**評価** 活動成果発表会総評の検討など

#### ◇5月24日（土） 平成25年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」

13:00～ レジデンスB

- ・**事前打合せ** 発表会の流れの確認など

13:30～ 八戸ポータルミュージアムはっち1階 はっちひろば

- ・**発表会**
- ・市民奨励金 H25年度交付事業（7件）
- ・市民提案制度 1件

## ○その他

### ■ 委員長

- ・公開ヒアリング審査会の変更点ですが、前はいきなり質問に入りましたが、今回は5分間何に使ってもいい時間を設けます。なにもないままで質問から入っていくとこちらも緊張しますし相手も緊張しますので、お互いアイスブレイクしていくイメージです。
- ・そういう時間があつたほうが相手にもよりよいヒアリング審査会になるのではないかと思いますして10分間の質疑応答の前に事業PRということで5分間設けます。
- ・委員の皆様から意見がなければそのような流れでいきたいと思っておりますけれども。  
⇒異議なし。
- ・あと「公開」の考え方についても意見がありましたけれども、今回のヒアリング審査会については、入っていただくがどうかはお任せすることにします。
- ・審査される団体さんからみれば、早いほうが他団体の審査を見られて有利じゃないかとかそういう意見があつたので公開にしましょうということになりました。
- ・今年度はこうして事前に書類審査をしておりますし、仮採点結果を見ても、審査の順番は影響しないというお話はさせていただいてかまいません。なので公開の方向で皆様にご提案させていただいてよければこのままやらせていただきたいと思っております。よろしいですか。  
⇒異議なし。
- ・他に何かありませんか。

### ■ 事務局

- ・災害に強い地域づくり実績報告書について。今年度事業を実施しました6団体の実績報告書がそろいました。
- ・災害に強い地域づくり応援コースは活動成果発表はなく、今回の実績報告で終了となります。
- ・お時間のある時にでも目を通して、これまでの事業にどういった課題があつたかというところを見ていただければ審査の参考になるかと思っております。後ほど提示させていただきます。

### ■ 事務局

- ・それではこれもちまして本日の第7回協働のまちづくり推進委員会を終了いたします。長時間大変お疲れさまでした。